

実社会や日常生活との関わりを見いださせる工夫

- 社会科の学びが実社会につながることで初めて「生きて働く力」になります。そこで、単元後半に実社会につながるような深まった学習問題に焦点化できるように単元の学習を構想しました。



どうなることがよいのか？

どうすることがよいのか？

実社会につながる学習問題

どちらがよいのか？

自分に何ができるのか？

【学習問題】 風評被害をなくすために、自分たちは何ができるだろう。

福島米は**安全**です!

品名	検査の種類	検査点数	基準値超過数(%)	超過数割合(%)
こめ	全量全袋検査	95%以上	0	0

(平成29年12月31日現在)

上の表を見るとわかりますが、基準値超過数と、超過数割合が**0**です! 前ページにのせたように、米は全量全袋検査をしています。だから、**福島米は安全**なんです!

子どもが作成したパンフレットの一部

ここに、**チューモク!!**

これは、全量検査済のマークです。

このマークは、**安心・安全**な印です!

子どもが作成したポスター

まず地域の人々に福島県産米の安全性をもっと知ってもらいたい。

根拠をきちんと示した方が分かってもらえると思う。

ポスターやパンフレットを米の直売所に置いてもらおう。

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のポイント

「どちらがよいのか?」「どうなることがよいのか?」を考えるには、それまでに社会的事象に関する理解を深めていなければなりません。ですから、学習した知識を活用して、現実的で、社会的な思考・判断ができるように単元を構想する必要があります。また「自分に何ができるのか?」と考えることで、社会の一員としての自覚が促され、自分事として社会的事象に関わることができるようになります。